



新規受託項目

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記項目につきまして、検査の受託を開始いたしますのでご案内申し上げます。

謹白



項目名

ガバペンチン	(依頼コード No.3397)
ラモトリギン	(依頼コード No.4237)
レベチラセタム	(依頼コード No.4238)
トピラマート	(依頼コード No.4307)

受託開始日 2012年1月5日(木) 受付分より

受託要領

項目名	ガバペンチン	ラモトリギン	レベチラセタム	トピラマート
依頼コードNo.	3397	4237	4238	4307
統一コード	3L215-0000-022-210	3L220-0000-022-210	3L230-0000-022-210	3L225-0000-022-210
検体必要量	血漿(ヘパリン)0.3mℓ			
採取容器	B-6 S-1			
検体の保存方法	凍結			
所要日数	4~10日			
検査方法	LC-MS/MS法			
基準値	なし			
単位	μg/mℓ			
報告範囲	0.10未満~最終値	0.10未満~最終値	1.00未満~最終値	0.10未満~最終値
報告桁数	小数第2位			
保険点数	470点(特定薬剤治療管理料)			
備考	ヘパリン血漿以外の材料のご提出方法はお問い合わせください。			

裏面に続きます

株式会社 **ビー・エム・エル**

本社：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3

総合研究所：〒350-1101 埼玉県川越市の場1361-1

☎ 049(232)3131 FAX 049(232)3132

電子カルテはビー・エム・エル

Qualis
Medical Station

ガバペンチン（販売名：ガバペン）

ガバペンチンは新たな作用機序を持つ抗てんかん薬であり、既存の抗てんかん薬で十分な効果が認められない部分発作を有するてんかん患者において、併用による発作抑制の効果が認められています。ガバペンチンは体内でほとんど代謝されず、肝薬剤代謝酵素の誘導・阻害作用をもたないため、他の抗てんかん薬との相互作用を起こしにくいと考えられており、日本では2006年7月に「他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用療法」を効能・効果として承認されています。

ガバペンチンは血中濃度の低下により発作抑制効果が維持されない状況が起こりうるため、血中濃度測定は、十分な治療効果を得るために有用です。

さらに腎機能障害や高齢者においては過量にならないように慎重な投与が必要とされています。

ラモトリギン（販売名：ラミクタール）

ラモトリギンはNa⁺チャンネルを頻度依存的かつ電位依存的に抑制することによって神経膜を安定化させ、グルタミン酸等の興奮性神経伝達物質の遊離を抑制することにより抗痙攣作用を示すと考えられています。

ラモトリギンは他の抗てんかん薬で十分な効果が認められない成人および小児の部分発作（二次性全般化発作を含む）、強直間代発作、Lennox-Gastaut 症候群における全般発作への併用療法の適応が認められています。また、双極性障害における気分エピソードの再発・再燃を抑制することが検証されています。

適正な投与量の調節のため、ラモトリギンの血中濃度を測定します。特に、肝機能・腎機能障害者においては慎重な投与が必要とされています。

レベチラセタム（販売名：イーケプラ）

レベチラセタムはシナプス小胞蛋白 2A (SV2A) に結合することにより抗てんかん作用を発揮する、既存の抗てんかん薬とは異なる作用機序をもつ抗てんかん薬です。

レベチラセタムは、2010年に「他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用療法」を効能・効果として承認されました。

適正な投与量の調節のため、レベチラセタムの血中濃度を測定します。特に、腎機能障害や重度の肝機能障害、高齢者においては慎重な投与が必要とされています。

トピラマート（販売名：トピナ）

トピラマートの作用機序としては、電位依存性ナトリウムチャンネル抑制作用、電位依存性L型カルシウムチャンネル抑制作用、AMPA/カイニン酸型グルタミン酸受容体機能抑制作用、GABA存在下におけるGABA_A受容体機能増強作用、および炭酸脱水酵素阻害作用が認められています。

特に、AMPA/カイニン酸型グルタミン酸受容体機能抑制作用は、既存の抗てんかん薬ではほとんど報告されていません。

トピラマートは、他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用療法の適応が認められています。

適正な投与量の調節のため、トピラマートの血中濃度を測定します。特に、腎機能・肝機能障害や高齢者においては慎重な投与が必要とされています。